

泉北教組臨時大会
同女性部臨時大会
2月19日(火)17:30～
和泉コミセン3Fホール

泉北教育

NO.1914 2013.1. 29.
発行 泉北教職員組合
〒594-0071 和泉市府中町6-12-2
TEL0725-41-1953 Fax0725-44-6570
E-mail senboku@gf6.so-net.ne.jp



府労組連は、交渉の冒頭、第一次集約分として職員署名1万3664筆、職場決議739職場分を提出し、職場からの怒りの声(別掲)を当局にぶつけ、提案の撤回を迫りました。また、「国に準じる」「他府県の動向」と言いながら、独自カット(5%)を行い、さらに退職金削減をしようと

職場の「怒り」を背景に当局を追及

不当な退職金削減・病休改悪案撤回！ 怒りの声を結集しよう！

今日9日の「退職金削減」「病休制度改悪」の不当な提案に対し、泉北教組は職場決議や職員署名の取り組みを進め、短期間にも関わらず500筆を超える署名が集まりました。府労組連は、こうした職場の大きな怒りの声を背景に22日、企画厚生課長との団体交渉を行いました。団体交渉後には、職場代表による人事室長への要請行動、本庁前での宣伝行動、決起集会・デモを行いました。

しているのは、大阪府だけである実態も示し、追及しました。

これに対し、当局は「非常に心苦しい」としながらも「財政状況が厳しい」と無責任な回答に終始しました。府労組連は、①この間の給与構造改革、給与制度改悪で2級・3級に多くの職員が滞留し、退職時の給与水準が低下している、②年度途中での退職者の増加も懸念され職場運営に支障が生じる可能性がある、③新たな高齢期雇用問題が先送りされているなどの問題点も指摘し、「この直近1年だけでも270億円の賃金削減を行っている、職員の賃金・生活をどう考えているのか」と厳しく追及し、提案の撤回と退職金5%カットの中止、毎月の給与カットも直ちに中止するよう求めました。

根拠のない病休制度改悪

病気休暇制度改悪について、府労組連は「2009年に当局自らが『府民に信頼の得られる制度』として見直したものであり、提案理由が理解できない」と指摘し、撤回を求めました。当局は、他の自治体での不正取得や他府県でも実施されている状況を説明し、提案に固執しました。

病休は休まれた特休・年休も連集

府労組連は、今回の通算の改悪によって、病休に挟まれた産前産後休暇や妊娠障がい休暇などの特別休暇も90日の通算に算入される問題も指摘し、あらためて検討するよう求めました。

全職員の同意で不当な提案を撤回させよう

府労組連田中委員長は「①

【団体交渉での職場からの怒りの声】

◆府職労女性部(50代女性)

家庭的責任を持つ女性の立場から、病休のさらなる制度改悪には反対です。子どもや親が病気の時、休むのはどうしても女性になります。子どもの看護休暇制度がありますが、感染性の疾患にかかると、あっという間に使ってしまうため、自分の年休はできるだけ使わずに備えているのが現状です。自分の病気で1日休むにも診断書が必要となれば、安くて2000円～3000円かかるうえ、その手間もかかります。結果として無理をして出勤することにつながります。無理をすれば、それが家族の病気を引き起こす原因にもなります。健康破壊につながる見直しは、絶対にやめてください。

◆大教組女性部(50代女性)

どの学校職場でも出産を控えた人が多くなっています。妊娠・出産には、つわり、お腹の張り、むくみなどの体調不良はつきものです。病休があるから子どもと母体が守れます。賃金・労働条件の改悪で、人が集まらず、学校現場では代替が見つからず、無理を承知で勤務しています。学年主任としての職務を学期末まで全うし、子どもの命を失った人や何回も流産し、流産予防の薬を飲みながら、仕事をしている人、妊娠中も夜の8時9時まで仕事をしている人もいます。教職員が子を産み育てる当たり前の人生を送れるように、条件整備をするのが使用者たる当局の責任です。今回の病休改悪の提案は、病休を取りづらくし、働き続けることをいっそう困難にするものであり、撤回を求めます。

退職金の削減は「国に準じる」というのは、きわめて無責任である。15年もの抑制・削減が行われている大阪の実情も踏まえるべき。また、大阪は深刻なデフレ不況に陥っており、その打開策も検討すべきである、②病休制度改悪は、職員を信頼していない提案で

ある。職員の健康と職場に責任を持つべきである。③『大阪から人が逃げる』事態がいっそう深刻化する。こうした事態の解消することが当局責任である」と述べ、提案の撤回を求めました。泉北教組は府労組に結集し、引き続き、職場の声を背景に、折衝・交渉を強化し、不当提案の撤回、退職金・給与の独自カットの中止をめざします。

組合に加入して、「教育基本条例」「評価・育成システム」をなくそう！

